

全国植樹祭5周年記念大会

～あれから5年これから5年の森林づくり～



参加者全員で『岐阜県民の歌を大合唱』

式典では、古田知事が「この5年間で岐阜県の森林政策は大きく前進した。森林整備、間伐も飛躍的に進み、木材生産コストも37%低下。県民や企業による植樹も各地で進んでいる。5年前の全国植樹祭、昨年の全国豊かな海づくり大会、来年のぎふ清流国体・清流大会と皇室の三大行事を通じて、山（森）と川と海のつながりを大切にしたい岐阜県ならではの『清流の国ぎふづくり』が着々と進んでおり、こ

5月21日、四美の皇樹の杜で、平成18年5月に開かれた「全国植樹祭」の5周年記念大会を開催しました。古田肇岐阜県知事や当時、総合司会を務めた女優の竹下景子さん、林業関係者や小学生など約2千人が参加して、これまで5年間の森林づくりを振り返るとともに、これからの森林づくりについて考えました。



古田肇岐阜県知事

れからも進めていきたい。災害に強い森林づくり。環境保全を重視した森林づくりが大切」などとあいさつ。引き続き緑化功労者などの表彰が行われました。





下原小の児童は森林環境学習活動を劇にして発表「自然の中は楽しいぜ！」



創作子ども歌舞伎「皇樹の杜物語」を竹下景子さんとともに演じた子どもたち



社会人や大学生となった当時の子ども司会者の皆さんと竹下景子さんによるトーク



バイオリンを奏でる打保さんは現在、音楽大院生



「恵みの森づくりコンソーシアム」の設立趣意書に調印



コブシの苗木を記念植樹

当日は、「第62回下呂市みどりの祭り」も同時開催され、地元特産品の販売や飲食コーナー、各種体験コーナーが設けられ、にぎわいました。

当日は、「第62回下呂市みどりの祭り」も同時開催され、地元特産品の販売や飲食コーナー、各種体験コーナーが設けられ、にぎわいました。

式典後、全国植樹祭でバイオリン演奏を披露した打保早紀さん（当時高校生）が当場し「エトピリカ」を演奏、再び来場者の心を魅了しました。

アトラクションでは、植樹祭を契機に進めてきた「生きた森林づくり」への取り組みを大型スクリーンで紹介。その後、当時子ども司会者として立派に進行を務めた船坂巳一郎さん、桂川幸子さん、熊崎有華さんが、竹下景子さんと登場し「とても懐かしく感じる」などと当時の思い出などを語り合いました。